

## 会 議 録

会 議 名	第10回米原市いじめ問題対策連絡協議会
開 催 日 時	令和元年11月11日（月）午後6時～7時45分
開 催 場 所	米原市役所 米原庁舎 会議室2A
出席者および欠席者	出席者：平尾道雄市長(会長)、山田三穂子委員、岡田英基委員、山本太一委員、有川博延委員、上村平委員、中島紳一委員、須戸三重子委員、宮永房一委員、伊藤亘委員、河居郁夫委員、吉田正子委員、北村和子委員、中納保委員、本田直也委員 欠席者：岩田俊幸委員、松山孝委員、堤基久男委員、 米原市：山田総務部長、西澤人権政策課長、中川学校教育課長、三條人権政策課課長補佐、嶋田主幹、松嶋主幹、橋本主任
議 題	【報告事項】 ① 令和元年度米原市におけるいじめ対策の概要について ② 令和元年度米原市いじめ問題専門委員会の取組について ③ 令和元年度 STOP いじめ生徒会フォーラムについて ④ いじめ問題に関わる保護者向けチラシの配布について 【意見交換】
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	事務局から報告事項を説明した後、意見交換を行った。いじめ問題に関わる保護者向けチラシについて、事務局案に対して委員それぞれの立場で意見があった。それらの意見を踏まえて、今後内容等の検討を行うこととなった。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)  会長（平尾市長）	1 開会（平尾市長挨拶） 関係機関をはじめ、各種団体の代表者、関係課の行政職員などが、米原市の子どもたちの健全育成のため御尽力いただいていることに感謝申し上げます。昨今、いじめに関するニュースがメディアで取り上げられている。本市でも変化する社会変化の中、自らの人権意識を問いながら、いじめの早期発見や対応する施策を展開する必要がある。忌憚のない意見をいただき、活発な議論の場となることをお願い申し上げ、開会に当たっての挨拶とする。 2 委員紹介 《過半数の委員が出席しており、協議会が成立している旨報告される》 3 議事 本日は、報告事項4件について、審議いただきたい。委員の皆様にご意見交換をしていただく時間を審議後に設けている。なお、会議は公開としている。 【報告事項】 ① 令和元年度米原市いじめ事案の概要について（事務局説明） 《米原市情報公開条例第7条第5号の規定により非公開》 ② 令和元年度米原市におけるいじめ事案および平成30年度米原市いじめ問題専門委員会の取組の概要（事務局説明） 《米原市情報公開条例第7条第5号の規定により非公開》 ③ 令和元年度 STOP いじめ生徒会フォーラムについて（事務局説明） 《資料4① 米原市情報公開条例第7条第5号の規定により非公開》

会長	それでは、今までのところで何か意見や質問があればお願いしたい。
委員	STOP いじめ生徒会フォーラムの説明で「K J 法は小学生にはなじみがない」というのがあったが、高学年では取り入れていることが多いと感じている。中学生との話し合いに少し慣れがなかったのかも知れない。米原小学校、米原中学校ではあいさつ運動を共同で行っている。
委員	他に STOP いじめ生徒会フォーラムの学びを学校に持ち帰って活用したものはあるか。
事務局	小中の連携となっているのは地理的には米原だけだが、各校独自の取組につなげている。
会長	フォーラム以外にも小中学校で一緒に何かをするということはあるか。
委員	小学生が中学校に出向いて体育の授業を受けている。また、小学校では音楽授業を中学校教諭が行っている。小学生にとっては中学生に憧れが生まれ、中学生にとっては小学生への思いやりなどつながりができる機会となっている。
会長	フォーラムでもいじめの実態について説明をされているが、どのように説明をされてたのか。また、学校でも事例をあげて指導を行うのか。
事務局	フォーラムでは4点ほど具体的な事例で説明を行った。各校では、自校の事例を出すというのは難しいので、典型的な例であげている。
委員	例えばクラス内で物がなくなった場合の指導や、学校全体で児童、生徒に校内の事例を投げかけて共有することはある。
委員	少年センターでは、中学校を卒業してから長年ひきこもっている子への対応をしている。いじめは人の人生を変えてしまう。米原市では子どもの数が減っているがいじめの件数は増えている。教師の察知能力が上がり、子どもの人数が少ない方が目の届きやすい環境となり発見しやすくなったと捉えられればよいが、市民はどのように見るだろうか。
	④いじめ問題に関わる保護者向けチラシの配布について（事務局説明）
会長	今ほどの説明で、意見や質問はあるか。
委員	「ありのままの自分を見つめませんか」は保護者に向けて発信しているものか。ありのままの子どもを受け入れようということではないのか。

事務局	保護者向けにポイントを絞って発信している。
委員	最初の「ありのままの自分を認めませんか？」のクエスチョンは要るか。また、文字が全て黒字である。フォントなどは変えているが、もう少し文字に色をつけてはどうか。
事務局	この部分は「ありのままの自分を認めましょう。」としていた。しかしながら、この表現をすると保護者に対して上からの目線と取られる可能性があるという意見をいただいた。クエスチョンがないと、違和感があると感じ付けている。
委員	今はDVを行っている親もいる。その人に対して「ありのままの自分を認める」ことに違和感がある。挿絵が、父と母の役割を固定するイラストとなっており、今の時代のジェンダーフリーの観点から、1人親家庭などいろんな家庭がある中で理想的な家庭が描きすぎているのではないか。
委員	確かに親の自己肯定感などを高め、子どもに接することは大切だが、この表現でそこまで読み取るのは難しいのではないだろうか。
会長	「いじめをさせない」ということはさせている人がいるということか。
委員	被害者、加害者、傍観者がいる。その傍観者にならない、という意味ではないか。ストップが言える子どもになってほしいということではないか。
会長	中段から下に「でも一番大切なことはおうちの方がありのままの自分を認められるようになることです。」と書いている。これがこのチラシの言いたいことと理解できる。いじめをする子の親はそういう（自分を認められない）傾向があるということか。
事務局	チラシを作るに当たり、関連書籍等も参考とした。親の自己肯定感の低さが子どもに対してストレスなどをぶつけ、そのストレスを今度は学校で発散するというパターンが多いと記述があった。
委員	発達障害が原因でいじめてしまう子、意図せずいじめてしまう子についても、ありのままを見つめるのか、と捉えられてしまわないだろうか。
事務局	虐待がある家庭は、親自身も虐待を受けて育った場合が多いと言われている。虐待をすることで「またやってしまった。」と思う方もおられる。そういう方にもこちらの意図が届けば良いなと思っている。

委員	上段と下段で親が子どものありのままを認めると置き換わっている部分に違和感がある。
委員	どこに焦点を当てていくのかについても議論する必要がある。
会長	<p>【意見交換】</p> <p>今までの内容も含め、意見交換の時間としたい。</p>
委員	今、いじめというのは保護者の方が大変忙しく、地域の人目が大変重要だ。家庭だけでいけるかということを考えたとき、チラシにそのことを掲載してはどうかと思っている。
会長	近年、教育委員会や現場が記者会見で「やはりいじめでした。」となる報道がある。市によっては市長自らが報告や通報を受けなくてはいけないとしている。第三者委員会が調査すると、行政や教育委員会判断が覆っていることが多い。
委員	保護者の訴え方が今までとは違うなという事案がある。そのように考えると常設型のいじめ問題調査委員会を置くべきだと思う。いじめがからかいなど軽微なものであっても、今はそういう時代に来ている。
会長	最近、幼児虐待や家庭内での殺人が起きている。その背景には不登校や引きこもりがあったり、親子関係が成立していなかったりする。行政や教育、地域がどのように関わればよかったのか。
委員	我々が感じるのは言った者勝ちの現状があるということ。当然、捜査して全て明らかになるが、場合によってはそこもしきれないことがある。個人の情報発信が強くなっており、それができる人間がものすごく強い。事件になれば、捜査を完遂して裁判所で判断を仰ぐが、それだけでいいのかと感じる。
委員	今回提案されたチラシは、保護者に支援的な立場で作られているが、支援だけでも難しいことがある。子どもがいじめを受け、それを親が聞く場合などの視点も入れられると良い。県のパンフレットは褒めると叱るの両方が大事と書いている。両方知っておかないと「ありのままの自分を認める」ことだけが増長してしまう。チラシ1枚で全てを表現するのは、難しいのかも知れない。
委員	昔はよく「罪を憎んで人を憎まず。」といった。今は悪いことをした人を立ち直れなくなるまでネットなどで叩き潰している。いじめをした子ども、みんなでいじめをしたらだめだと伝えればよい。いじめをした子ども事情が

委員	あることを、学校の教師は分かっている。再犯が問題になっている時代だ。
委員	再犯の問題というのは非常に大きい。非行が減っている中で、再犯の少年だけは一定数いる。いじめをした子へのケアも必須だ。絶対的に自分が正義だと思っている人が多い世の中だと感じている。
委員	私には中学生と高校生の子どもがいる。軽くたたく、ふざけることは仲間内であるが、いじめとなるようなものないと言っている。しかし、周りの先生から見ると、「今のはいじめだ。」となってしまう。どこを見ていじめとするかが難しい。このチラシもすごく考えられていると思う。親が子に体罰を与え、その子もそれを発散するために誰かを叩いているのであれば、その親に対しても一言付け加えたほうが良いと思った。
委員	最近では生徒も簡単に死ぬと言う。今年7月に岐阜県で男子生徒が飛び降り自殺をした事案があった。職員にも何か起これば今まで頑張ってきたものが全て水の泡になってしまうと話している。記録を取るなど危機管理をしていくことは大切だ。日々見ようとしないとなかなか見えないことがある。
会長	<p>様々な意見をいただき感謝する。米原市のいじめ防止早期発見、そして子どもたちをいじめから守ることを各セクションからこれからも関わっていただきたい。十分なまとめとはならないが意見交換とさせていただく。</p> <p>4 山本教育長（閉会挨拶）</p> <p>今日は長時間にわたり、いろいろな意見をいただき感謝する。新聞やテレビの報道でいじめについて大きな問題が次から次へと出てくる時代となっている。子どもが安全で安心できる、死という言葉が安易に出てこない、そんな米原市でありたい。今後とも皆様のお力添えをいただきたい。</p>

会議の公開・非公開の別	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 一部公開または非公開とした理由 （ 米原市情報公開条例第7条第5号の規定による ）
会議録の開示・非開示の別	<input type="checkbox"/> 開示 <input checked="" type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等：米原市情報公開条例第7条第5号） <input type="checkbox"/> 非開示（根拠法令等： ）
全部記録の有無	会議の全部記録 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 録音テープ記録 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
担 当 課	総務部 人権政策課